

第4学年 国語科授業実践

1 単元名 「一つの花」

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。	・「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。	・粘り強く、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって、心に残ったところを伝え合おうとしている。

3 教材のとらえ

本作品は、登場人物が家族3人のみであり、場面の移り変わりも分かりやすい作品である。また、全体の構成としても戦争中と戦争後なので、児童にとって状況を捉えやすい作品である。一方で、戦争中という児童が経験したことがない場面の話であるため、社会の状況をイメージし辛い作品でもある。さらには、3人称視点で書かれてあり、客観的視点で描かれている。「ゆみこは、いつもおなかをすかしていたのでしょうか。」「それは、あのお母さんでしょうか。」などの文末表現を用いて、作者さえも真実を明らかにせず、問いかけるように書かれていることで、それぞれの解釈を促す作品となっている。

この作品は、戦争中と戦争後の「対比」が様々な表現で表されている。例えば、「おまんじゅうだの、キャラメルだの、チョコレートだの、そんな物はどこへ行ってもありませんでした。」に対し、「お母さん、お肉とお魚とどっちがいいの。」と食べ物で裕福になったと想像できる表現などが挙げられる。このような「対比の表現」を読み取り、場面と場面の結び付きを意識させたい。その中で、お父さん、お母さん、ゆみ子の行動や社会の状況から、それぞれの気持ちを読み取らせたい。

本時では、「10年後のゆみ子は幸せになったのか」という問いに対して、「ゆみ子は幸せになった。」と考える児童が多いと予想されるが、自分の考えをもって発表したり、友達の意見を聞いて考えを変えたりするなど、話し合いを通じて、物語に関する感性を高めさせたい。



4 本時の目標（7/9）

戦争後のゆみ子が幸せか幸せでないかについて、叙述を基に考えて発表し、自分の考えを深めることができる。

学習活動	教師の支援
1 前時の内容を振り返る。	前時までの学習を掲示しておき、これまでの学習を想起しやすくする。
2 本時の問いを確認する。	前時に問いに対する自分の考えをまとめさせる。
10年後のゆみ子は幸せになったのかな？	
3 友達の考えを知る。	友達と意見を交流させ、友達の立場を知る。
4 全体で問いについて話し合う。 幸せ ・「お肉とお魚とどっちがいいの？」と食べ物が自由に食べられるようになってから ・絵が幸せそうだから ・スキップしているから ・毎日空を飛んでいた飛行機が飛ばなくなったから ・「でも」と書かれているから、前の文の反対を言っているから幸せなんじゃないかな ・「包まれている」と書かれているから、いっぱいの花はお父さんで、ゆみ子を見守っていると思ったから 幸せではない ・お父さんが戦争でなくなってしまったから ・お父さんが戦争から帰ってこなかったから ・お父さんの顔を覚えていないから	ネームプレートを黒板に貼り、友達と自分がどちらの考えなのかを可視化する。 「幸せである」という意見が多数であると予想されるため、「幸せではない」方の意見を出し、児童の考えを揺さぶる →掲示してある前時までの学習を想起させる ⇒叙述に基づいて「幸せである」という意見を出させる。 【思考・判断・表現】 ・登場人物の性格や情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、表現している。
5 再考する ・10年後は、飛行機とかが飛んでいなくて爆発もないからゆみ子は幸せだったんじゃないかな ・お父さんがくれたコスモスの花がいっぱいになっているから幸せじゃないかな ・でも、お父さんが戦争でなくなってしまったから幸せじゃないと思う。	・答えは一つではなく、それぞれの解釈で問いに対して、考えるように声をかける。 →物語に対する結末は、一人ひとりに違いがあるから面白いということを抑える。
6 学習を振り返る	振り返る視点を明確にする。 ① 今日の授業でわかったこと ② 疑問に思ったこと ③ 感想